

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年12月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103839
法人名	社会福祉法人 中江報徳園
事業所名	グループホーム サンひまわり
所在地	鹿児島市下伊敷1丁目44番11号 (電話) 099-218-2045
自己評価作成日	令和4年11月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○『知恩報徳』を理念に掲げ、入居者様が明るく豊かな生活が送れますように、職員一同、その恩に感謝し社会への貢献を目指しています。
○国道3号線近くで交通の便もよく、利用しやすい場所に開設されています。近隣には玉江小学校や県立短大もあり、静寂な地域に立地し、住環境に適しています。
○玉江校区コミュニティ協議会の一員として、公民館や近隣の学校行事へと積極的に参加しており、近年はコロナウイルス感染症防止により地域行事は中止されているが、ベランダでの日光浴にて通行中の方へ挨拶するなど地域住民との交流が図られるよう努めています。
○いしき訪問看護ステーションと連携することで、24時間の医療体制をとっており、日常の健康管理においても安心して施設生活を送って頂けます。
○職員は法人内での勉強会、外部研修にも積極的に参加し、認知症ケアだけでなく、様々な分野の知識を深め、サービスの質の向上に努めています。
○法人内の管理栄養士や理学療法士などの専門職とも連携することで、栄養バランスのとれた季節の食材を活かした食事の提供、生活動作機能の向上に努め、入居者様が意欲的な生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市下伊敷の国道3号線から一筋入った一角のビルに平成16年に開設されている。周辺には県立短大や小学校、金融機関、医療機関、スーパーマーケットや多種の商業施設、マンション、個人住宅等が立ち並んで利便性は良く、日常的に登下校する小学生や学生の様子、車の往来が眺められているが騒音は殆んど感じられず平穩に生活できる環境である。
地域密着型事業所として、開設以来、地域との交流を大切に取り組んできており、町内会に加入し地域の状況の把握に努め学校行事や地域の清掃活動、イベント等に参加するほか、日頃の散歩や買い物時には挨拶を交わし、ボランティア、友人知人の面会等を積極的に取り組むなど円滑に交流する関係を築いているが、現在はコロナ禍に配慮して殆んどを自粛している。玉江小校区地域コミュニティー協議会の一員としても積極的に協力し、また、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症等に関する相談にもグループホームの役割や施設見学等も取り入れながら、専門性を生かして助言等に努めている。
管理者及び職員はホームの理念及び目標を玄関、事務室に掲示し、毎日の朝礼時に唱和も行っており、周知を図っており、利用者の尊厳や想い、習慣等を大切に、その人らしい生きがいを持ち、安心した生活となるように取り組んでいる。日頃から利用者及び家族からの意見や要望の汲み取りに努め、朝礼や申し送り時に検討して運営やサービスの改善を図っており、家族との信頼関係が築かれている状況がアンケートの結果からも窺える。
管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼関係を築いており、日頃の業務の中や朝礼、申し送り等で意見や要望を出し合い、また、個人の事情等も把握しながら業務やサービスの向上に努めている。管理者は、日常的にケアに対する助言・指導や研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得促進、健康状態、個人的事情等にも配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。法人による給与体系が構築され、外部研修受講や資格取得時の経費の助成制度もあり、職員のモチベーションとなっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所目標を玄関、事務所に掲示、職員間で声かけ、意識しながら実践に繋げている。	法人の理念「知恩報徳」とホーム独自の目標を玄関及び事務所に掲示し、毎日の朝礼時の唱和や日頃の業務の中及びカンファレンス時に振り返りや意義の確認、意見交換等を行って理念の共有とケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域コミュニティ協議会の部員として活動している。 コロナ感染対策により地域行事への参加が難しくなっているが、ベランダでの日光浴などを通して近隣の方へ挨拶をされるなど交流の機会が持てるように支援している。	開設以来、地域との交流を大切に取り組んでいる。町内会や地域コミュニティに加入して情報の把握に努め、会議や行事等へ参加しホームのイベント（敬老会、防災訓練等）に家族及び地域の人々の参加、ボランティアも受け入れるなど良好に交流出来る関係が築かれているが、コロナ禍に配慮して現在は一時帰宅、外食、イベントへの家族や地域住民の参加、ボランティアの受け入れ等は控えている。周辺の散歩やベランダでの日光浴時には地域の人と会話を交わし、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアの相談には専門性を生かして助言に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の民生委員、町内会役員とも連携しており、困りごとの共有、問題解決に取り組んでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策の為、文書による回議となっているがハガキを同封、案内や資料を直接配布に伺う等、意見を聞けるようにしている。	会議は、町内会代表、民生委員、地域代表（現在は薬局）、市担当者等が出席して隔月毎に開催してきているが、コロナ禍に配慮して現在は書面会議に変更している。ホームの状況やヒヤリハット、感染症対応等を報告しており、会議の内容の資料を委員宅に持参して意見や要望、地域の情報等を貰っている。職員は寄せられた意見を検討して運営やケアの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿支援課、介護福祉課による研修等への参加、支所の福祉課、保護課等とも手続き時等に情報を伝え、協力関係を築けるよう努めている。	市伊敷支所の担当者とは電話やメール、窓口に出向いて、介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症予防に関する協議、生活保護受給中の利用者（3人）の処遇に関する連携等を密に行って助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。WEB会議や動画による市の会合や研修にも積極的に参加して運営やサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人にて身体拘束等適正化委員会を設立し、定期的に身体拘束廃止に関する勉強会も開催、職員同士注意しながら防止している。	身体拘束の無いケアについては運営規定や重要事項、利用契約書に明記され、法人による計画的な研修の実施で認識を共有している。毎月の会議や日頃のケアの中で言葉による拘束も含めて振り返りや意見交換等を行い、尊厳や個性、利用者の特性を大切にしたい拘束の無いケアに努めており、身体拘束適正化の指針も整備し委員会を年4回、法人全体で開催している。不適切な言動には、その都度、助言し合うなど改善に努めており、見守りセンサーの使用はプランに反映させ家族も理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内施設内外の研修や勉強会に参加し、資料を回覧、申し送りを行ない職員同士で意見を共有しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修や勉強会に参加し、学びの継続を行なっている。入居者様個々に必要な事を検討し提案できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が内容の説明をおこない、納得と同意を得た上で署名を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、ご意見等いただけるようにしている。また、面会時や電話にて要望やご意向をお聞きする機会を作り、反映できるように努めている。	日頃から利用者や家族には気軽に意見・要望を言い易い雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日頃の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会（テラスや玄関のガラス越しで実施）や電話、アンケート、意見箱で、また、写真、コメントを掲載した「サンひまわりだより」を毎月発行して利用者の状況を伝えながら意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された要望等は検討して改善を図り、それらの結果は家族にも伝えている。現在、コロナ禍により家族会は中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なかなか定期的な分科会が持っていないが朝礼やカンファレンス時、管理者が業務に率先して入る事により職員との対話を通じて提案を聞き、内容を理解する事で改善できるような体制をとっている。	管理者及び職員は、日頃からコミュニケーションに努め、気軽に意見を言い合える信頼関係を構築している。日常の業務の中や朝礼、カンファレンス時に意見や要望を出し合い、また、個人面談も実施して業務に関する悩みや相談、家庭の事情等も把握して業務やサービスの向上を図っている。管理者は、日常的にケアへの助言・指導や研修を実施し資格取得へのバックアップにも努め、勤務シフトには有給休暇の取得や健康状態、個人的事情等も配慮する等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、緊急の勤務交替にも協力的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所で年間計画を立て、目標に向けて取り組んでいけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年内外部研修の計画を作成、外部研修へ参加できる職員は限られているが、処遇改善の採点項目に自己研鑽の研修への参加を取り入れる事で職員が率先的な参加ができる仕組みを作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流の機会は減っているが管理者がグループホーム連絡協議会の集まりや地域コミュニティ協議会会議等に参加することで情報交換をおこなえるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	元気な頃の趣味や生活環境を本人、家族よりお聴きし、会話に活かすことで信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面談をおこない、要望や意見、困りごとを伺い、望んでる生活が出来る様、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、医療機関、ケアマネージャーから情報収集を行ない、カンファレンスを行ない、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の経緯を活かし、出来る事を見極め、日常生活で役割を持っていただく事でお互いを支えあい、意欲ある生活が出来るように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であり、窓越しではあるが気軽に面会ができるように支援し、毎月のひまわり便りでの近況報告や家族からのメッセージ動画も送っていただけるように声かけもおこない、家族との絆を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり面会や外出など制限があるが鹿児島市内の感染状況に応じて家族との外出が短時間でもできるように取り組んでいる。	入所前の生活状況を把握し、利用者毎の馴染みの人や場の情報を共有している。感染症の予防に配慮しながら家族や友人の面会や馴染みの理美容店での訪問による整髪、家族との通院、近所の商店での買い物（ホームが同伴）等を個別に支援し、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って周辺の散歩等も支援している。写真を添付した「サンひまわり通信」を家族に送付して利用者の状況を伝える等馴染みの人や場との関係継続に努めているが、コロナ禍に配慮して外泊や一時帰宅等は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、行事、日常生活を通し、個々の性格や能力を考え、コミュニケーションが取れる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も退居先やご家族と連絡を取り、情報提供などのフォローを行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りや日頃のコミュニケーションにて希望や意向、ニーズの把握に努めている。	利用者の思いは日頃の会話や仕草、表情等から汲み取り、家族にも確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしになるように努めている。余暇時間も利用者の意向に沿って新聞読みやテレビの視聴、太鼓の演奏、貼り絵、ぬり絵等の取り組みを体調や身体能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価の言葉を添えて、自己肯定感が得られるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行ない、生活歴やこれまでの暮らし方について把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現在の心身状態、残存機能の把握を行い、希望の過ごし方に合う介護の提供に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の家族からこれまでの暮らし方、これからの生活に対する意向の聴き取りを行ない、カンファレンスにて職員の意見を出しあい、話し合うことで介護計画を作成している。	利用者や家族の思いを把握し、主治医の指示（情報提供書）やモニタリングやミーティング時の職員の意見を基に改善点等を確認し、習慣や楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。計画は定期的な見直しのほか、状態の変化時には実態に沿って変更して改善に取り組んでおり、その都度、家族の理解も得ている。ケアの実施状況は「業務日誌」や「身体状況記録」「申し送りノート」等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や参加した行事、ケアの内容を個別の介護記録に記入し、職員間で情報共有している。ケアの方法や計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人との会話や家族面会時の近況報告にて、ニーズを把握し、柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察署、消防署、民生委員等と協力、連携を取り安心した生活ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医や協力病院と連携し、往診、又は受診など適切な医療の提供ができるよう支援している。	利用者毎の治療歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としており、定期的な訪問診療（月1回）と訪問看護が定期（週1回）及び必要時に実施され、また、専門医の受診は家族と連携して同行するなど適切な医療が受けられている。日常的に衛生や健康管理が徹底され、病状の変化時の対応や協力医療機関との医療連携体制も構築されて、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師配置がない事で職員一人一人が入居者の日々の変化にいち早く気づき、契約している訪問看護へ相談、主治医への報告と指示を受ける事で早期対応できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の入院計画書を確認、担当者と情報交換や相談に努め、状態を把握し、早期に退院できるように医療機関と協働を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針の説明をおこなっている。協力病院と連携を取りながら終末期には看取りの実施、全職員で支援に取り組める体制を整えている。	重度化や終末期の対応を入所時や必要に応じて本人や家族に説明して理解を得ており、看取りについては指針を整備し同意書も貰っている。利用者が重度化した時点で主治医から病状を説明され、家族と十分に話し合って可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、これまでも看取りも実施している。看取り実施後は振り返りを行い、また、急変や応急手当、看取りに関する研修も計画的に実施して職員のスキルアップと不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示し、職員全員が対応できるようにしている。毎年、法人内研修や防災訓練にて地域の消防署の協力で救命救急法や応急手当の研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施、災害発生時の対応についても掲示する事で職員が対応について確認ができるようにしている。地域の防災担当者とも連携が取れるよう関係を築いている。	年2回（本年度はコロナ禍により消防署立ち合いは無し）夜間を含む火災や風水害を想定した通報や避難訓練、消火訓練を実施し、通報や消火器等の取扱い等の研修も行っている。水害を想定しての上階への避難（自主訓練）や報道された災害事例を基に意見交換するなど、日頃から災害対策の認識を深め、地域との協力体制（災害時の利用者見守り）も築いている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置や連絡網を整備し、災害時のカセットコンロ、介護用品、ラジオ、食料・飲料水等もチェックリストを作成して備えている。ホームのBCP（業務継続計画）については策定済みである。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼で接遇目標である支援の為の四つのことを読み上げ、気持ちを引き締め心を込めて対応できるようにしている。個人のプライバシーを配慮し、ゆっくりわかりやすく優しい言葉遣いを心掛けている。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報保護については運営規定や利用契約書に明記され、計画的な研修で周知を図って実践に繋げている。利用者の習慣や思いを大切に、尊厳を損ねる言葉遣いや対応を行わないように日々努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造で台帳類も事務室で適切に管理している。衣服の選択や余暇時間の過ごし方は利用者の自己決定を尊重しながら柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の日常生活の中で何でも意見を伺える環境作りを徹底している。その場に応じて一人一人の思いや希望を声に出したり、態度や表情の変化に気付けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の個性を尊重し、その日の体調や気分に応じて希望を伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	職員が天候や季節等をお伝えすることでご本人の意思で季節にあった好まれる衣類を選択できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の状態に応じて食事形態、盛り付け、器に配慮して提供している。食事の下準備は本人の能力を見ながら職員が見守り安全におこなえるように配慮している。	利用者の好みや栄養バランス、形態、季節感等に配慮したメニューを1週間毎に作成し、食事の前に読み上げて食への興味や楽しみに繋げている。お節や節句、敬老会など昔からの習慣を大切にした行事食や誕生日のケーキ、ホールでのお茶会、手作りのおやつ等、食事が楽しみとなるように工夫しており、利用者も食材の下処理や下膳等を楽しみながら行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食、弁当持参のドライブ等は控えている。利用者毎の食事や水分の摂取量は把握している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立に基づいて食事を提供し、一人一人の状態に応じて食事の好みや嗜好を把握し、水分はお茶以外にジュースやゼリーなどご家族の協力を頂きながら摂取量が保てるよう支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけ、確認を行ない、ご自分で出来ない部分を職員が介助をおこなう事で清潔の保持ができるよう支援し、口腔ケアの方法についてや口腔内の異常があれば協力歯科に相談、指導や必要であれば往診を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の声掛けやいつでもトイレに行きたいと言える環境を作り、排泄がスムーズに行う事ができるよう機能訓練も行い、その方に応じた排泄支援に努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、身体機能や習慣、羞恥心等にも十分配慮しながら昼間は声掛けや付き添い等で可能な限りトイレでの排泄を支援して排泄機能の維持を図っており、オムツからリハビリパンツへの改善も見られている。便秘の予防に乳製品、植物繊維の多い食品、水分量、運動等に配慮し、状況によっては主治医にも相談して対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行ない、食事の量、水分量、運動量の状態を把握、訪問看護に報告し、主治医の指示で下剤の服用や腹部マッサージ、水分摂取や運動等の指示をもらい支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週2回入浴していただいているが、ご本人の希望に合わせて別曜日に入って頂く、体調不良時は清拭等で清潔に過ごしていただくよう努めている。	週2回入浴を基本としているが、必要に応じて温タオルやシャワー浴等で清潔を保っている。入浴日や温度、時間、入浴剤、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、個浴でゆっくり楽しんで貰うように配慮しており、入浴後は水分補給や保湿剤の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、時間の変更や声かけ等を工夫し、利用者の意向を汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は各々のペースで好きな場所で過ごして頂いているように支援、就寝時は居室の照明や室温などの環境も合わせて配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬ファイルを作成、マニュアルに沿って服薬介助おこなう。薬局に居宅療養管理を委託し指導を受ける事で安全に服薬ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事、楽しみごと、得意な事を引き出しながら役割を担い、集団生活の中で続けていけるよう配慮しながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で必要以上に外出できていないが桜の時期は近くの公園へ散歩やベランダのウッドデッキや屋上のサンルーム等で日光浴等外の空気に触れ季節を感じていただけるように支援している。	利用者の状態に応じた介助で、ベランダやサンルームでの日光浴や周辺の散歩を日常的に実施し、利用者の希望を汲み取りながら近くの公園の桜や紅葉の見物、買い物や通院時のドライブで馴染みの景色を楽しむなど個別に支援している。コロナ禍に配慮して現在は一時帰宅、外食、墓参、ドライブには控えており、室内での軽い体操や手作りの鳥居での初詣の実施、ボンボン釣り、音楽・ビデオの視聴等工夫した取り組みでリフレッシュに努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持たれている入居者様ご希望があれば地域のコロナ感染状況に留意しながら職員と出掛け購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人や家族の希望時に電話できるように支援している。個別に携帯電話を所持されている方は家族と連絡されている。文字の書ける方は年賀状や希望時は家族への近況報告に手紙を同封する等支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、室温、湿度を毎日計測、快適に過ごせるように配慮している。入居者様が生けた季節の花や職員と共に作った飾りを飾り季節を感じていただけるように工夫している。	ホーム全体が明るく余裕ある広さが確保されており、ホールにはテーブルセットやテレビ、ソファ、空気清浄機等が動線や利便性を考慮して配置されている。随所に季節感のある利用者の作品や月1回実施の活け花等が飾られ対面キッチンからは調理の音や臭いが伝わる等、和やかで落ち着いた雰囲気になっている。清掃、整理整頓が徹底され、空調、異臭、感染予防にも細かに配慮して、快適に過ごせる環境整備に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のソファやホールなどご本人の好みの場所でテレビや新聞などゆっくり楽しめる様、配慮している。気のあった方同士と一緒に過ごせたり、歌を歌いたい方が気兼ねなく歌えるように空間作りをおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望する思い出の写真や馴染みの物を持ち込めるようにし、安心して過ごせるようにしている。	居室はフローリングの床に腰高窓、内障子の構造でカーテンも設けられて明るく余裕ある広さが確保されており、ベッド、エアコン、タンス、洗面台、ナースコールが備えられている。利用者は長年愛用していたラジカセやテレビ、家族写真、毛布、化粧品等を持ち込み、自身の作品や誕生日や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に居心地よく過ごせる雰囲気の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室からホールへはわかりやすい動線となっている。 状態変化の際には職員間で話し合い、他入居者やご家族の協力をいただき、居室の変更など生活しやすい環境が作れるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない